

◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- ・ 京都市のインフルエンザの定点あたり報告数は0.96となり、9週連続で減少しました。
- ・ 侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例(80歳代女性)あり、症状は発熱・肺炎・菌血症で、感染地域は国内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染です。本年初めての報告例です。
- ・ 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が3例(30歳代、70歳代および80歳代の女性)あり、症状は菌血症等で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は29例となりました。本疾患の予防にはワクチンの接種が有効です。
京都市では、「高齢者肺炎球菌ワクチン」を定期予防接種として実施しています。詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○高齢者肺炎球菌ワクチンの定期の予防接種について(健康安全課ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000171591.html>
- ・ 水痘(入院例)の報告が1例(40歳代男性)あり、症状は発熱・発疹で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は2例となりました。
- ・ 梅毒の報告が4例(20歳代および50歳代男性、10歳代および40歳代女性)(第13週追加報告分1例含む)あり、感染地域は国内で、感染経路は性的接触です。本年の累積報告数は27例となりました。
重症化や感染の拡大、まん延を防ぐためには早期発見、早期治療が大切です。不安を感じたら検査や受診をしましょう。
京都市では、平日昼間、土日及び夜間にHIV・性感染症(梅毒・淋菌・クラミジア)検査を実施しています。詳細については、下記のホームページを御覧ください。
○京都市情報館「京都市のHIV検査について(平成29年度から検査体制を変更しました。)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000047908.html>

◆ 今週のトピックス: <侵襲性インフルエンザ菌感染症>

今週、京都市では本年初めて侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例あり、平成25年4月1日に5類全数把握疾患に追加されて以降の累積報告数は25例となりました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 7例(肺結核 3例, その他結核 1, 潜在性結核感染者3例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 89例(肺結核 35例, その他結核 19例, 潜在性結核感染者 35例)うち喀痰塗抹陽性 16例】
- ・ 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 3例【1月以降の累積報告数 29例】
- ・ 五類:水痘(入院例) 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類:梅毒4例【1月以降の累積報告数 27例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

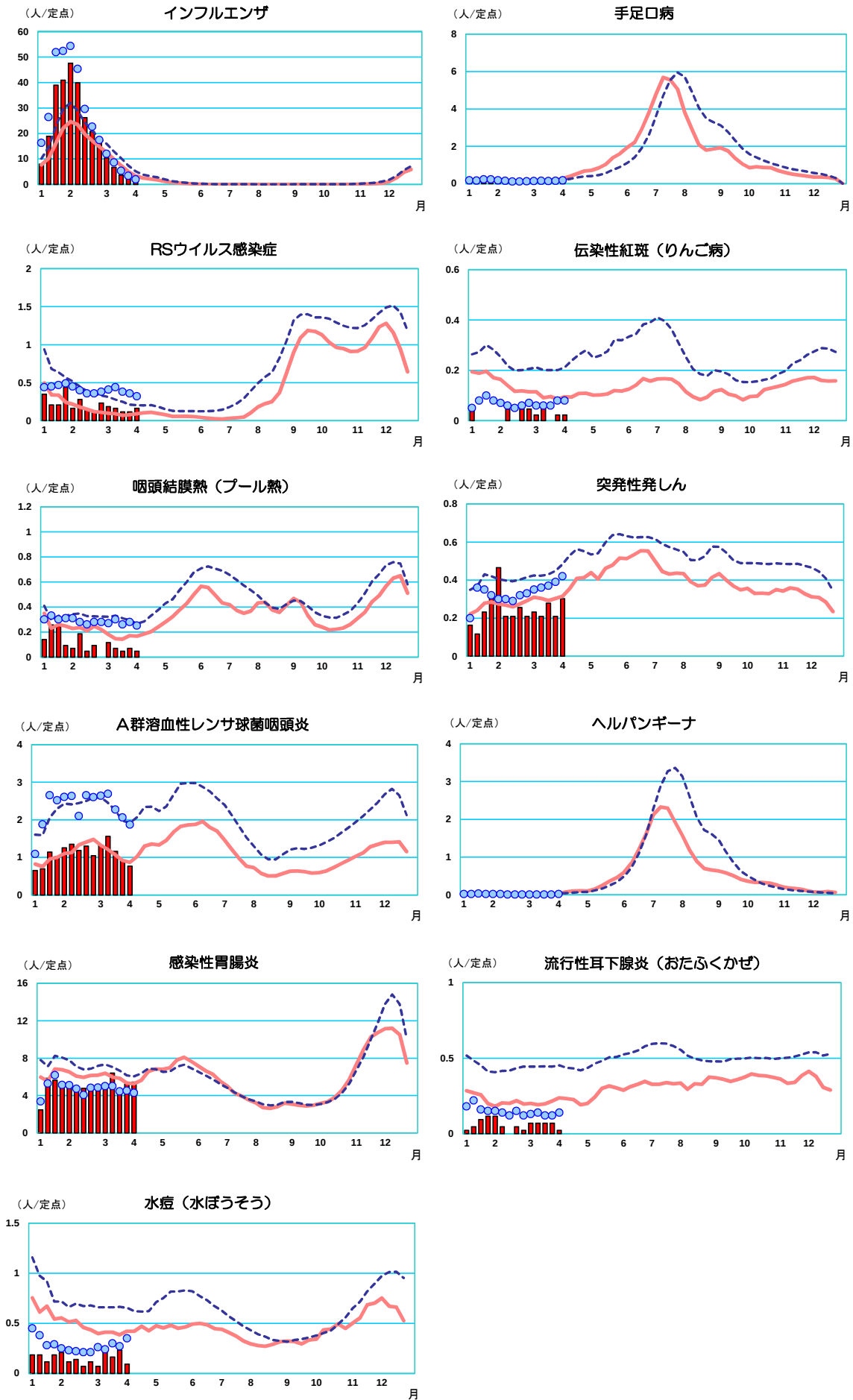
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0. 96	66
小児科	① 感染性胃腸炎	5. 44	234
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0. 77	33
	③ 突発性発しん	0. 30	13
	④ RSウイルス感染症	0. 16	7
	⑤ 水痘	0. 09	4
眼科	流行性角結膜炎	0. 20	2

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <侵襲性インフルエンザ菌感染症>
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成30年4月11日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第14週(4月2日～4月8日)トピックス: <侵襲性インフルエンザ菌感染症>

今週、京都市では本年初めて侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例あり、平成25年4月1日に5類全数把握疾患に追加されて以降の累積報告数は25例となりました(表1)。全国の報告数は年々増加していて、平成29年は372例にのぼり、本年もすでに129例が報告されています(図1)。年齢階層別では京都市、全国ともに同じ傾向で、65歳以上が60%以上を占めています(図2)。

本疾患はインフルエンザ菌による感染症のうち、菌血症、菌血症を伴う肺炎、髄膜炎を主症状とする侵襲性感染症(本来無菌的な部位に菌が侵入することで起こる疾患)です。5歳未満の乳幼児では成人に比べ、髄膜炎を発症することが多く、この場合、死亡率は3～6%、聴力障害を含む後遺症が約20%に残るとされています。このため、乳幼児に対して、インフルエンザ菌の中でも、最も病原性が高いb型(HiB)に対するワクチンが平成25年4月から定期接種化されました。標準的なスケジュールは、生後2箇月から6箇月までに初回を開始し、合計4回接種します(詳細は下記ホームページ参照)。

ワクチン接種により重篤な疾患を引き起こすリスクを95%以上減らすことができると言われており、図2で5歳未満の占める割合がある程度低く抑えられている一因は、接種による効果であると考えられます。

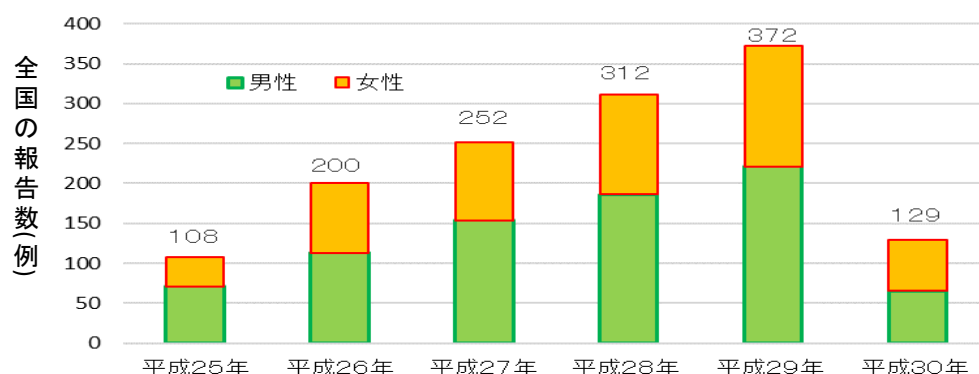
○京都市情報館「京都市が実施する定期の予防接種について(子どもの予防接種／協力医療機関検索はこちら)」
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000130799.html>

(表1)京都市の年別報告数の推移

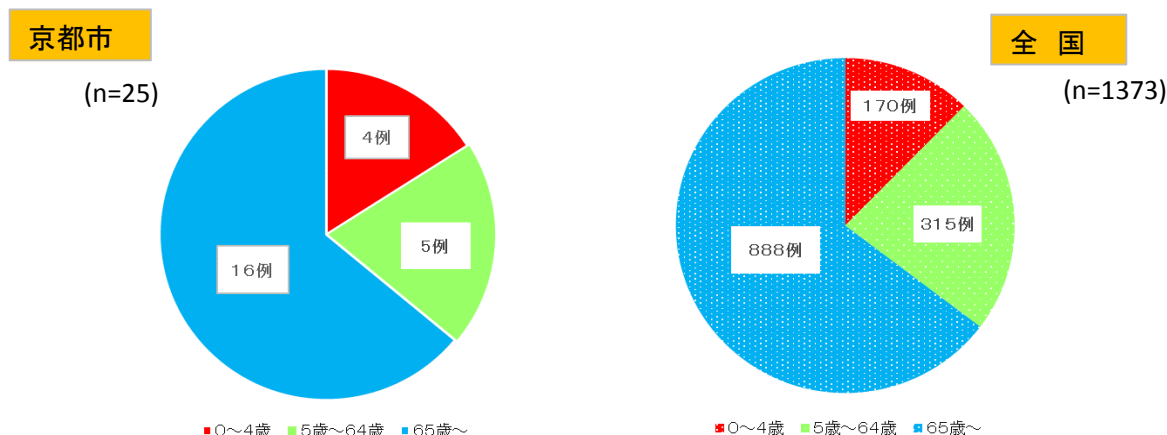
	男性	女性	合計	髄膜炎を発症した患者
平成25年	0	2	2	1 (0歳 ワクチン接種前)
平成26年	3	0	3	1 (60歳代 ワクチン接種不明)
平成27年	5	1	6	
平成28年	6	4	10	
平成29年	1	2	3	
平成30年	0	1	1	

(人)

(図1)全国の年別報告数の推移
(平成25年4月～平成30年第14週)



(図2)京都市及び全国における年齢階層別割合
(平成25年4月～平成30年第14週)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第14週

疾病,行政区別報告数

平成30年4月2日～平成30年4月8日

データ入手日:平成30年4月11日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	2	-	-	1	8	-	-	-	-	-	-	-	1					
上京	1	-	-	-	8	-	1	-	-	-	-	-	-					
左京	9	-	-	8	76	-	-	1	-	-	-	-	-					
中京	3	6	-	1	7	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	4	1	-	2	19	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	12	-	-	1	8	-	-	-	2	-	-	-	-					
下京	2	-	-	-	2	-	-	-	1	-	-	-	-					
南	15	-	-	2	3	-	1	-	1	1	-	-	-					
右京	7	-	-	8	21	-	-	-	2	-	-	-	-					
伏見	7	-	2	4	64	3	-	-	6	-	1	-	1					
西京	4	-	-	6	18	1	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	66	7	2	33	234	4	3	1	13	1	1	-	2	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)
男女合計																		
北	0.29	-	-	0.25	2.00	-	-	-	-	-	-	-	1.00					
上京	0.20	-	-	-	2.67	-	0.33	-	-	-	-	-	-					
左京	1.29	-	-	2.00	19.00	-	-	0.25	-	-	-	-	-					
中京	0.60	2.00	-	0.33	2.33	-	0.33	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	1.33	0.50	-	1.00	9.50	-	-	-	-	-	-	-	-					
山科	1.71	-	-	0.20	1.60	-	-	-	0.40	-	-	-	-					
下京	0.67	-	-	-	1.00	-	-	-	0.50	-	-	-	-					
南	3.00	-	-	0.67	1.00	-	0.33	-	0.33	0.33	-	-	-					
右京	0.88	-	-	1.60	4.20	-	-	-	0.40	-	-	-	-					
伏見	0.64	-	0.29	0.57	9.14	0.43	-	-	0.86	-	0.14	-	0.50					
西京	0.50	-	-	1.20	3.60	0.20	-	-	-	-	-	-	-					
京都市計	0.96	0.16	0.05	0.77	5.44	0.09	0.07	0.02	0.30	0.02	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第14週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年4月2日～平成30年4月8日

データ入手日:平成30年4月11日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	66	－	1	3	5	2	2	2	3	1	4	1	2	6	6	4	7	5	3	6	3
RSウイルス感染症	年齢3	7	1	－	－	6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		2	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		33	－	－	1	4	9	2	2	3	3	2	2	2	－	3						
感染性胃腸炎		234	3	18	36	27	22	17	14	15	8	7	5	22	7	33						
水痘		4	－	－	－	－	－	2	－	1	－	1	－	－	－	－						
手足口病		3	－	1	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	1	－						
伝染性紅斑		1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		13	－	5	5	3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		1	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	1	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ（※1）	年齢1	0.96	－	0.01	0.04	0.07	0.03	0.03	0.03	0.04	0.01	0.06	0.01	0.03	0.09	0.09	0.06	0.10	0.07	0.04	0.09	0.04
RSウイルス感染症	年齢3	0.16	0.02	－	－	0.14	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
咽頭結膜熱		0.05	－	－	－	－	0.02	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.77	－	－	0.02	0.09	0.21	0.05	0.05	0.07	0.07	0.05	0.05	0.05	－	0.07						
感染性胃腸炎		5.44	0.07	0.42	0.84	0.63	0.51	0.40	0.33	0.35	0.19	0.16	0.12	0.51	0.16	0.77						
水痘		0.09	－	－	－	－	－	0.05	－	0.02	－	0.02	－	－	－	－						
手足口病		0.07	－	0.02	－	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	0.02	－						
伝染性紅斑		0.02	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
突発性発しん		0.30	－	0.12	0.12	0.07	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
ヘルパンギーナ		0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.02	－	－	－	－						
流行性耳下腺炎		0.02	－	－	0.02	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－						
急性出血性結膜炎	年齢2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
流行性角結膜炎		0.20	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.10	－	0.10	－	－	－	－	
細菌性髄膜炎（※2）	年齢4	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
無菌性髄膜炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
マイコプラズマ肺炎		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
クラミジア肺炎（※3）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
感染性胃腸炎（※4）		－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第14週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年4月11日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	1,212	716	469	253	160	66
RSウイルス感染症	10	8	7	5	5	7
咽頭結膜熱	—	5	3	2	3	2
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	45	57	67	50	39	33
感染性胃腸炎	211	207	275	195	225	234
水痘	5	3	10	7	10	4
手足口病	1	1	3	4	1	3
伝染性紅斑	2	1	3	—	1	1
突発性発しん	9	10	9	12	9	13
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	2	1
流行性耳下腺炎	1	3	3	3	3	1
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	3	4	1	3	3	2
細菌性髄膜炎 (※2)	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎 (※3)	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎 (※4)	—	—	—	—	—	—
合 計	1,499	1,015	850	534	461	367

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	17.57	10.38	6.80	3.67	2.32	0.96
RSウイルス感染症	0.23	0.19	0.16	0.12	0.12	0.16
咽頭結膜熱	—	0.12	0.07	0.05	0.07	0.05
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.05	1.33	1.56	1.16	0.91	0.77
感染性胃腸炎	4.91	4.81	6.40	4.53	5.23	5.44
水痘	0.12	0.07	0.23	0.16	0.23	0.09
手足口病	0.02	0.02	0.07	0.09	0.02	0.07
伝染性紅斑	0.05	0.02	0.07	—	0.02	0.02
突発性発しん	0.21	0.23	0.21	0.28	0.21	0.30
ヘルパンギーナ	—	—	—	—	0.05	0.02
流行性耳下腺炎	0.02	0.07	0.07	0.07	0.07	0.02
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	0.30	0.40	0.10	0.30	0.30	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎 (※3)	—	—	—	—	—	—
感染性胃腸炎 (※4)	—	—	—	—	—	—
合 計	24.47	17.64	15.73	10.43	9.55	8.11

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。